

令和6年度

# 少年の主張 埼玉県大会

作品集



主催：埼玉県・埼玉県教育委員会・青少年育成埼玉県民会議・  
独立行政法人国立青少年教育振興機構

協賛：Humming Bird 未来基金・埼玉キワニスクラブ・公益財団法人埼玉 YMCA・  
羽石電気工業株式會社・森乳業株式会社・株式会社埼玉りそな銀行・株式会社テレビ埼玉・  
株式会社埼玉新聞社



# 大会発表者の皆さん



えちぜん ここは  
越前 心葉さん

## 小学生の部



おもらい さえ  
面来 咲愛さん



かきぬま えいすけ  
柿沼 瑛祐さん



きら まこ  
吉良 真子さん



よしの なお  
吉野 菜緒さん



あらい のあ  
新井 望亜さん

## 中学生の部



かまがた ひかり  
鎌形 ひかりさん



きくち れいな  
菊池 玲名さん



たかやま ちさき  
高山 千咲さん



のざわ あゆか  
野澤 歩夏さん



いとう まゆみ  
伊藤 真弓さん

## 高校生・ 一般の部



いとう れい  
伊東 玲偉さん



おちあい ゆな  
落合 優奈さん



せきね れいあ  
関根 怜愛さん



なかじま みのり  
中嶋 美紀さん

# はじめに



皆さん、こんにちは。去る8月18日に、43回目となる「少年の主張埼玉県大会」を青少年育成埼玉県民会議、埼玉県、埼玉県教育委員会、独立行政法人国立青少年教育振興機構の主催で行いました。

今回の大会には34,214名の応募があり、その中から15名が発表者に選ばれました。一人一人が自分たちの言葉で、日常生活で感じた思いや経験を発表していました。貴重な経験になったと思います。

発表された内容を見ると、国際問題や環境問題のほか、平和や命の大切さ、多様性、AIなど、幅広いテーマが取り上げられていました。どれも簡単には解決できない困難な課題ですが、私たちが向き合わなければならないことでもあります。どの発表もそれぞれの課題解決に不安や迷いを感じながらも、果敢に挑み、より良い社会にするために自分にできることを真剣に考えていました。また、全ての発表が他者を思う気持ちに満ちていたことが印象に残りました。強い意志と優しさを感じました。今後も悩み、考え、行動していくことを願っています。

この大会を通じて皆さんは、多様な視点や考え方を養い、自分の思いを伝える力を身につけることができたと思います。この力を糧に、夢や希望に向かって歩み続けることを期待しています。埼玉県としても、皆さんの意見を施策に取り入れて、皆さんが健やかに幸せに成長できるような社会を実現してまいります。

この冊子は、大会で発表された15名の主張をまとめたものです。多くの方々に読んでいただき、青少年の夢や希望、熱き思いに共感していただければ幸いです。

結びに、日頃から青少年の健全育成に御尽力いただいている皆様に感謝申し上げますとともに、大会の開催に協力していただいた皆様に心からお礼を申し上げます。

令和6年12月

青少年育成埼玉県民会議会長  
埼玉県知事 大野 元裕

# 目次

- はじめに（青少年育成埼玉県民会議会長 埼玉県知事 大野 元裕）
- 大会の様様…………… 1 ページ

## （小学生の部）

最優秀賞	「価値ある命」 三郷市立桜小学校6年	おもらい 面来	さえ 咲愛さん	……………	3ページ
優秀賞	「ココロぼきん」 幸手市立吉田小学校5年	きら 吉良	まこ 真子さん	……………	4ページ
優良賞	「平和学習と私の使命」 さいたま市立岸町小学校6年	えちぜん 越前	こころ 心葉さん	……………	5ページ
優良賞	「相手を理解することの難しさ」 日高市立高萩小学校6年	かきぬま 柿沼	えいすけ 瑛祐さん	……………	6ページ
優良賞	「AIと職業の未来」 狭山市立富士見小学校6年	よしの 吉野	なほ 菜緒さん	……………	7ページ

## （中学生の部）

最優秀賞	「その人らしさを大切に」 草加市立谷塚中学校2年	かまがた 鎌形	ひかり ひかりさん	……………	8ページ
優秀賞	「AIに負けない」 桶川市立加納中学校2年	のざわ 野澤	あゆか 歩夏さん	……………	9ページ
優良賞	「BRIDGE」 秩父市立大田中学校1年	あらい 新井	のあ 望亜さん	……………	10ページ
優良賞	「濁った目に映る澄んだ日々」 三郷市立瑞穂中学校3年	きくち 菊池	れいな 玲名さん	……………	11ページ
優良賞	「目に見えない障害」 飯能市立加治中学校1年	たかやま 高山	ちさき 千咲さん	……………	12ページ

## （高校生・一般の部）

最優秀賞	「国際問題に対して高校生の私ができること」 筑波大学附属坂戸高等学校3年	なかじま 中嶋	みのり 美紀さん	……………	13ページ
優秀賞	「生きていく」 さいたま市立浦和南高等学校2年	いとう 伊藤	まゆみ 真弓さん	……………	14ページ
優良賞	「幸せをつくる」 早稲田大学本庄高等学院1年	いとう 伊東	れい 玲偉さん	……………	15ページ
優良賞	「もう一つの大切な居場所」 埼玉県立草加南高等学校3年	おちあい 落合	ゆな 優奈さん	……………	16ページ
優良賞	「地球の未来を考える」 埼玉県立秩父高等学校1年	せきね 関根	れいあ 怜愛さん	……………	17ページ

- 特別賞の紹介…………… 18ページ
- 講評（株式会社埼玉新聞社執行役員編集局長 砂生 敏一氏）…………… 20ページ
- 大会の概要…………… 21ページ

# 大会の様



開会の挨拶  
(青少年育成埼玉県民会議 小松弥生副会長)



会場の様子



発表の様子 (小学生の部)



発表の様子 (中学生の部)



発表の様子 (高校生・一般の部)



審査の様子



ミニコンサート  
(彩音会)



講評  
(株式会社埼玉新聞社 砂生敏一執行役員編集局長)



最優秀賞【知事賞】の授与  
(青少年育成埼玉県民会議 柿沼トミ子副会長)



優秀賞【教育長賞】の授与  
(埼玉県教育局 青木孝夫県立学校部長)



優良賞【青少年育成埼玉県民会議会長賞】の授与  
(青少年育成埼玉県民会議 芦澤吉一副会長)



記念写真

## 「価値ある命」

三郷市立桜小学校 6年  
面来 咲愛



まず大会に出れてうれしかったです。みんなすごく良かったです。出られるだけでもうれしいのに、最優秀賞をもらえて、うれしかったです。今回の経験を忘れずに、これからもがんばります。

「あなたの値段はいくらですか。」

ペットショップでは、色々な生き物たちに値段がつけられて売られています。犬や猫、小鳥や金魚…それぞれの命に値段がつけられています。

私の愛犬「クッキー」もその1匹でした。しかし、他の子たちとはちがいで、値段が安く売られていました。その理由は、生まれつきパテラ（膝蓋骨脱臼）により後ろ左足が脱臼しやすい状態だからです。飼う前から病気がありと知り、正直不安な気持ちもありました。歩けなくなったらどうしよう。一緒にお散歩できるかな。いつまでも元気な気持ちでいてくれるかな。不安な気持ちは考えれば考えるほど浮かび上がってきました。しかし、それ以上に「クッキー」を見た瞬間からなぜかは分かりませんが、とても運命を感じ、この運命を信じる決断をしました。

「クッキー」は、見事に私の不安を裏切り毎日を元気に過ごしています。走り回ったりボールで遊んだり、ご飯をモリモリ食べたりと元気いっぱいです。病弱として売られていた面影は一切なく、あの決断は間違っていなかったのだと確信する毎日です。

この前、道徳の授業でペットたちの殺処分のことについて学びました。命を軽い気持ちで買い、その後大変になり捨てる人もいることを初めて知り、胸が痛みました。捨てる多くの理由としては、お金がかかる。大きくなって可愛くなくなった。これらが主な理由でした。どれも身勝手な理由ばかりです。飼うと決めたならペットを優先するのが飼い主の役目であり、責任です。無責任すぎる人たちが多くいることに、授業が進むにつれ、怒りと悲しみが同時に襲いかかってきました。その時にふと頭にうかんできたのが「クッキー」です。クッキーとペットショップで出会った時のことを思い出しました。クッキーは目がかがやかせながら、私を見つめてきました。きっと捨てられたペッ

トたちも初めは同じような目をしていたと思います。その目が少しずつかがやきを失っていったと思うと胸がズキズキといたみます。

学校終了後、早くクッキーに会いたいと思い無心で歩き続けました。クッキーはいつも通りしっぽを左右に大きくゆらしていました。私はいつも以上にだきしめました。すると、クッキーの「ドクドクン」という力強い心ぞうの音が私の体全体にひびきわたりました。病弱だったクッキーは、今も変わらず生きています。その小さな心ぞうを一生けん命に動かし続けています。この命は人間と同じたった一つの大切な命です。そして同じ価値です。これをいつまでも忘れずクッキーとの毎日を大切に過ごしていきたいです。

生き物たちは、売られなくて売られているわけではありません。値段をつけられなくてつけられているわけではありません。また、ペットには飼い主を選ぶ権利もありません。自分自身を飼いたいと思ってくれる人が来るまで待ち続けなければいけません。だからこそ私たちは人間と同じ命であることを忘れずに考え、行動をしていかなければいけないと強く思います。

これから犬や猫などのペットを飼いたいと考えている人がもしいるのであれば、私のこの思いをとどけたいです。命を飼うのは簡単ではありません。自分の命と同じように最後まで動物の命によりそい続けてほしいです。私もこれから年をかさねていき、環境が変わったとしても今のこの気持ち、クッキーが与えてくれた時間、感情すべてを忘れることなく生き物とともに生活していきたいです。

無責任すぎる人たちへ聞きたいです。動物の気持ちを理解しようともせず、命を平気で無だにしてしまうそんな心を持っているあなたの「値段」はいくらですか。

## (小学生の部 優秀賞)

# 「ココロぼきん」

幸手市立吉田小学校 5年  
吉良 眞子



今回の大会では、きんちょうし、文がとんでしまったけれど、自分の伝えたかったことがしっかりと伝えられて良かったです。これからココロぼきんを実現できるよう、とりくんでいきたいです。

私の家は真言宗のお寺です。江戸時代、関宿藩の殿様が参勤交代の時の休憩所として使われていたそうです。

ご本尊は薬師如来という仏様で、特に目が良くなるといわれています。でも、私はあまり目がよくありません。

最近父は、「お賽銭が少なくなった。」と言っています。また、能登半島地震の募金のお手伝いをしましたが、最近はキャッシュレスになったり、景気が悪いなど全体的には募金は集まりにくくなったとも聞きました。

その前はウクライナの募金もありました。学校の先生やニュースなどでみんなが「平和が大事」、「戦争はよくない」と言っているのに、なぜずっと続いているのか不思議でなりません。

そこで、どうしたら世の中が良くなるのか、私に何ができるのか考えました。

まず、今世の中でどのようなことが問題になっているか考えました。身近な問題だと、いじめや不登校、ヤングケアラー、貧困などがあります。私も学校に行けない時期がありました。また、社会全体の問題だと、環境問題、少子高齢化、戦争などが問題となっています。

私は、これらを解決するための方法を考えました。

結論から言うと「募金」です。しかし、私が提案するのは「ココロぼきん」というものです。

これは、一般的な募金ではなく、困っている人々への居場所の提供、応援メッセージ、いらなくなったものの寄付など、お金ではない心です募金のことです。

このココロぼきんのメリットは、お金じゃないため、集めやすく、たくさんの方が支援することができます。そして、お金とは別の安心を届けることができます。

ここで具体例を二つ紹介します。

一つ目は、おうちの空き部屋や空きスペースを提供し、子供の居場所など新たな居場所を提供するということです。ちなみに、ホームレスの人の数より世の中には空き家の数が何倍もあると教わりました。世の中には貧困で困っている人がいま

すが、その何倍もの食料が捨てられています。

二つ目は、お金ではなく、自分の時間を提供して、一人一人が相談窓口になるということです。いま最も深刻なことの一つに、孤立化から来る心の病があるからです。

このようなことを実現するために、大きくやるべきことを三つ紹介します。

一つ目は、世界共通のココロ通貨という新しい通貨を作ります。この通貨は、貧しい国でも平等に使える新しい通貨制度です。これまで見えなかった心の富を蓄えることができます。

二つ目は、ココロ銀行を作ります。例えばココロぼきんをしてくれたらココロ通貨がたまり、貯金や投資などを通じてお互いに支えあえる仕組みを作ります。

三つ目は、ココロ国連を作ります。心の豊かさが資産となり、心の大国が常任理事国になります。

次に、ココロぼきんの効果を紹介します。

まず、学校のみんが相談できる人になることで、いじめ防止や、不登校、ヤングケアラーの支援につながり、みんなが学校にも行けて楽しくなります。

また、みんなに親切にすることで、ココロ通貨が貯まるので、貧困も少なくなると思います。

そして、ココロ大国が世界を安定させ、戦争がなくなり、たくさんの方の命が助かります。

このようにココロぼきんで、世界中の人がより幸せに安心して暮らせるようになります。また、経済面のお金の悩み、健康や心の悩みなど、たくさんの方が解決されます。

私の父はきげんが良いと母とは赤い糸で結ばれていたんだという話をします。私にはまだ見えませんが、見てみたいです。

友達は、「心が見えてしまうようで少し怖いね。」と言っていました。私はそうは思いません。これまで気付かなかった困っている人が見えたら、温かい親切や真心が見えたら、素敵な世界になると思うからです。

そして、このココロぼきんは、将来の話ではなく、今日の前からできることです。



# 「平和学習と私の使命」

さいたま市立岸町小学校 6年  
越前 心葉



今回の発表は手話を教えてくださった先生をはじめ多くの方の助けをいただきました。

平和の大切さ、戦争の悲しさをあらゆる人に知ってほしいという思いを込めて発表しました。

私は広島市の出身です。父の転勤で3年生のときにさいたま市に引っ越してきました。

広島の小学校は、毎年平和学習があります。平和学習は、戦争や平和の理解を深めるために、戦争によって、もたらされる悲げきやかく兵器の恐ろしさについて学びます。

広島は78年前に世界で初めて原子爆弾が投下され、一瞬にして多くの命が奪われました。平和学習では、実際に被爆した人の話を聞いたり、仲間と平和について話し合ったりしました。そのような学習を通して、私は平和の大切さや戦争の恐ろしさを学びました。

そして8月6日は夏休み中の登校日です。原子爆弾が投下された8時15分に1分間黙とうをします。このように戦争、原子爆弾、平和について学ぶことは広島に住む私にとって身近に感じるものでした。

さいたま市に転校してから、平和学習がないのでその必要性や感じたことを考えるようになりました。

埼玉に住む私の周りの人は原子爆弾がいつ投下されたのか知っている人は、ほとんどいません。また学校で平和について話すこともほとんどありません。広島の小学生よりも戦争は、遠い過去のものになっているのではないかと感じました。また、広島よりも戦争体験を実際に聞く機会もかなり少ないと思います。子供の私たちが戦争の恐ろしさを知らないともたまたま戦争はくり返されてしまうのではないかと不安になります。

実際に近くの国でも戦争が始まってしまいました。

広島の平和記念公園にある原爆死没者慰霊碑には、「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませぬから」ときざまれています。私たちは、戦争で亡くなられた方との約束を守らなければなりません。だからこそ平和学習は、必要だと思います。

私のひいおじいちゃんは、原子爆弾が投下された場所から、2キロメートルの場所に住んでいました。そして原子爆弾で一度に三人の小さな子供を亡くしたそうです。

家の中にいた女の子二人は、家に押しつぶされて助けることができませんでした。外で三輪車に乗っていた3才の伸一くんは、全身にやけどを負っていましたが、ひいおじいちゃんとひいおばあちゃんと逃げる事が出来たそうです。やけどで顔がパンパンになった伸一くんは、「ぼくの三輪車…」と言ったそうです。そして水を欲しがったけれど、当時は、やけどをして水を飲むと死んでしまうから「水、水」と言いながら亡くなりました。ひいおじいちゃんは、庭のすみに伸一くんと三輪車を一緒に埋めて、伸一くんとよくにたお地蔵様を置いて、毎朝水とお線香を持ってお参りしたそうです。

40年経ってお墓に入れるために土をほり返したところ、鉄かぶとをかぶった伸一くんの頭を包むように真っ白な根っこが頭を守っていたそうです。そして三輪車もそのままの形でほり起こされました。

それらは現在、広島市の平和原爆資料館に「伸ちゃんの三輪車」として展示されて国内外の訪問者に訴え続けています。

私も広島の祖父母の家に行った時には、必ずお地蔵様に手を合わせています。伸一くんの後に祖父が生まれ、母が生まれ、今の私があります。伸一くんの命を引き継いでいるのだと手を合わせながら感じています。

そして、私にできることはないか考えています。

ひいおじいちゃんは、私が生まれる前に亡くなったので会ったことはないけれど、証言ビデオで見たことがあります。その証言映像で話していることを祖父が文字に書き起こしてくれて私が読む練習を去年から始めています。

ひいおじいちゃんの思いを引き継げるのではないかと考えています。

私の広島に住むいとも子供平和サミットでスピーチをしていて平和を訴える活動をしているので、私もさいたま市で仲間が平和について考えるきっかけに何かできればいいなと思っています。

それが、伸一くんの命を引き継いだ私の使命だと日々考えています。

## 「相手を理解することの難しさ」

日高市立高萩小学校 6年  
柿沼 瑛祐



吃音症のぼくですが、みなさんの温かい拍手がうれしかったです。他の人たちの考え方がとてもすてきだと思いました。勉強になりました。これからも想像力と考える力で自分の主張を持ちたいです。

「あー。今日もあいつにからまれるのかな。」いつもなにかと僕につっかかってくる男の子がいる。いつもは、「またなんか言ってる。おれが何をした?」と流しているが、あの日にはちがった。「えいちゃんには兄弟がないからわからないんだよ。」僕はこの言葉を言われて、思わず右手をにぎりしめた。なんか悔しかった。僕はこの言葉を言われてなぜ悔しかったのだろうか?

言われ方が嫌だった、それもある。何も言い返せない自分が嫌だった、それもある。けれどあの時、母が僕の肩にそっと手を置いて「瑛祐、我慢だよ。えらいね。」と声を震わせていた。母も同じ気持ちなんだと思った。僕の気持ちをわかってくれた。人は同じだから理解できるのだろうか。ちがうと理解できないのだろうか。

僕は一人っ子だ。兄弟がほしいと思ったことはないけれど、兄弟がいることも一人っ子だってどちらも素敵なことだと思っている。だけど、僕には兄弟がいる子の気持ちは確かにわからない。理解するって難しい。だから僕は辞書で「理解」という言葉を調べてみた。

辞書には①物事のすじ道やわけを正しく知ること、②人の気持ちや立場を思いやること、とあった。この場合、①彼がこの言葉を僕に言ったすじ道やわけを正しく知ること、②彼の気持ちを思いやる必要があることがわかった。「いや、僕にはできそうにない。」そう思った。彼はいつも僕にからんできて、何かと僕のせいにする。周りにいる人は「我慢してね。」とか「気にしないこと。」などと言うが、正直僕はムカついていた。だから「理解なんてしたくない」そう思った。

しかし、あの時、母の声が震えているのを感じて、同じ気持ちだったことに安心した。だから「えらいね。」って言ったんだろう。家に帰った後、母がポツリと「言葉で簡単に傷ついちゃうんだね。」と言っていた。母も悔しかったことは僕にも理解できた。

しばらくして「明日をつくる10歳のきみへー103歳のわたしから」という日野原重明さんの本を思い出した。彼がその中で伝えていたことは、①ゆるしの心を持つこと、②おとなになったら自分の時間を人のために使うこと、そして「いのち」とは自分が自由に使える時間のことだと訓えられた。僕は感想文の中で、これは日野原重明さんから僕へのミッションとして受け取ると書いている。いや、書いてしまった。そして、それを思い出してしまった。でも、この本を読んでちょうど1年が経ち、1歳大人になった僕だから、彼のために時間を使ってみようと思う。

彼は疲れていてイライラしていただけかもしれない。僕が気づかないうちに嫌な所があったのかもしれない。その言葉で僕が嫌な思いをするなんて思っていなかったかもしれない。彼は一人っ子の方がいいという考えだったのかもしれない。どれが正しいのかわからないが、僕はそのように想像した。相手のことをすべて理解することは難しいんだと改めて思った。けれど、このことを通して僕には相手の気持ちを想像してみることができた。僕に気持ちがあるように、相手にも気持ちがあり、それが自分とはちがう時、理解してみようという気持ちが、ゆるす心を持つことにつながるのではないかと考えた。

これから僕はどれだけ自分とはちがう人と出会うのだろう。その度にムカつくのは嫌だと思った。いや、ムカついてしまうかもしれない。わからないって言うことが、こんなにも頭も心もグルグルするとは思わなかった。

相手のことを理解することは難しいかもしれない。けれど、僕には想像力がある。考える力がある。これを使ってわからないことが、わかるようになりたい。そして、あの時、安心したように「君のこと少しはわかるよ。」と言える人になりたいと僕は思う。

# 「AIと職業の未来」

狭山市立富士見小学校 6年  
吉野 菜緒



この大会を通して、社会でおきている色々な問題について考えるきっかけになったので、本当に感しゃしています。そして、なにごとにもちょう戦し、立派な薬ざい師になりたいです。

「ほほ～すごいな～」と、心の中で思わずさけんでしまいました。家族と一緒にいったファミリーレストランで、ロボットが料理を運んで来たのです。どうして歩いている人や動いている他のロボットにぶつからないで、正確に料理を持ってこられたのだろうかと思議に思い、とても興味を持ちました。調べてみると、このロボットには、AIがとうさいされていることが分かりました。

AIとは、アーティフィシャル・インテリジェンスの略で、コンピューターやロボットなどの機械に人間と同じような知能を与える技術のことです。「人工知能」とも言われています。世界の人々は、便利さを求めてAIを發展させてきました。

わたしは、AIには二つの種類があると考えます。一つ目は、生活を支えるAIです。例えば、自動で温度を設定してくれるエアコンや、自分で動いて床をきれいにしてくれるお掃除ロボットなどがあります。これらは、とても便利でわたしの家でも大活躍しています。二つ目は、会社で使われるAIです。例えば、工場で不良品を発見する機械や、種類ごとに自動で箱詰めする機械などがあります。これらの機械は、夏休みにお菓子工場の見学をしたときに見つけました。最近では、決められたことだけをするのではなく、考えたり予測したりすることもできるようになっているそうです。しかし、便利な一方で、今まで人間がやっていた仕事が、うばわれてしまうという危機が訪れています。

わたしは将来、薬ざい師になりたいと思っています。なぜなら、風ぜをひいて病院に行ったときに、真っ白な薬局衣を着た薬ざい師さんが働いていたのを見てかっこいいと思ったからです。しかも、薬の説明を分かりやすくやさしく教えてくれて、とても素てきでした。この薬ざい師の仕事にも、AIが使われようとしています。

AIは、ぼう大なデータベースにしゅん時に接続して、最適な答えを導き出すことが得意とされています。薬ざい師の仕事では、正しく薬が出さ

れているかの確認、飲みやすいように薬を分量通りに混ぜること、今までどんな薬が出されていたのかの確認が大切ですが、これらはAIでもできるそうです。

しかし、薬ざい師にしかできないこともあります。処方せんで間ちがっていたところをお医者さんに知らせることや、かん者さんに薬について、分かりやすく説明するなどのコミュニケーションをとることです。また、かん者さんの顔色を見たり声の大きさを聞いたりして、どんな体調なのか考えることもできます。

ロボットができないことについて、私に思い当たることがあります。それは、最初に書いた配ぜんロボットのあるレストランで、スプーンを落としてしまった時のことです。通りがかった配ぜんロボットに「新しいスプーンをください」と頼もうと思いましたが、理解してもらえないと思い頼みませんでした。そのあと、店員さんをお願いすると、すぐにやさしい笑顔でスプーンを持ってきてくれました。この出来事から、わたしは人間にしかない「思いやり」を身につけたいと思うようになりました。

わたしはいま、6年生として1年生の教室へ学校生活の手伝いに行っています。学校生活になじめない1年生もいるため、同じ目せんで話をして、いち早く学校が「楽しい」と思ってもらえるようにサポートしてあげています。この活動を一生けん命やることで、「思いやり」「コミュニケーション力」をきたえたいと思っています。それが、将来薬ざい師になったときの自分の力になるとわたしは思います。

AIは素晴らしい技術です。これから先、わたしたちの生活はAIによってさらに便利になっていくことでしょう。わたしは、AIと競うのではなくAIと共存し、よりよい社会を作っていきたいです。

AIと共に生きる未来へレッツゴ～

# 「その人らしさを大切に」

草加市立谷塚中学校 2年  
鎌形 ひかり



自分の主張を多くの人に聞いてもらい、こんな名誉な賞までいただけて本当に光栄に思います。これからも「自分らしさ」、「その人らしさ」を大切に、みんなで認め合って生きていきたいです。

私は女子だ。女子だけど、スカートやワンピースを1着も持っていない。制服もズボンのものを着ている。女子だけど、一人称は僕のとときもある。

ここまで聞くと、私のことをトランスジェンダーなどだと思った人もいるかもしれない。しかし、私は自分を男子だと思っているわけではない。ただ、自分のいたい姿で過ごしているだけだ。私はジェンダーの考え方が広がった今、自分の個性を大切に、ありのままに生きている人がいることを知ってほしいと思っている。

私は中学に入る前からずっと「スカートを履きたくない」と親に訴えていた。スカートを履くとなんだか落ちつかなくて、ズボンのほうが自分にじっくりくるとずっと思っていたからだ。しかしそのころはまだ、制服には女子のスカートと男子のズボンの二種類しかなかったので、「男子の制服が着たい。」とも言っていた。親は男子の制服を着ることで私が悪目立ちすることを心配した。しかし、私が男子の制服を着ることはなかった。なぜなら、新しい制服が生まれたからだ。女子のズボン。私が長年待ち望んでいたものが、ついに私の学校でも出来上がったのだ。

小6の春、私は制服を作るために、お店で試着をすることになった。するとお店の人は私に何も聞かずにスカートの制服を持ってきた。やっぱり「女子はスカートを履く」というのが当たり前なんだ。少し悲しくなったけれど、勇気を出してズボンの制服が着たいとお願いした。試着をして、やっぱり自分にはズボンがじっくりくると感じた。

いざ学校に行くとなると、少し不安もあった。ズボンの制服について何か言われるのではないかと思ったからだ。しかし、学校に行くと私の制服についてどうこう言う人は一切いなかった。「似合ってるよ。」「ひかりっぽくていいじゃん。」みんなは私のありのままの姿に何も疑問に持つことなく、ただ受け入れてくれたのだ。

そのことで心が軽くなり、少し油断した。クラスの人と話すときに、つい僕という一人称でしゃべってしまったのだ。以前、僕という一人称を使うことに親は抵抗を示していた。それ以来、親に

心配をかけたくないという思いから、私は僕という一人称をあまり使わないようにしていたのだ。今度はどんな言葉が返ってくるのか、少し緊張した。「意外だ。でも、今はジェンダーレスの時代だもんね。」帰ってきた言葉はちょっと私の事情とは違った。別に私は男子でありたいわけじゃない。だから、ジェンダーレスというのはなんか違う気がする。でも自分は女子っぽくありたくはなくて……。頭の中に自分が何者なのか、何者でありたいのかが渦巻いて、自分が結局何だったのかが分からなくなってきた。

そんな疑問を抱いた私に、1冊のリーフレットが配られた。そこには温かい言葉と共に性のあり方について書かれていた。性のあり方は一人一人違い、四つの性のものさしの組み合わせで考えることができる。四つの性とは、体の性、心の性、好きになる性、そして表現する性だという。その説明の下に、グラデーションのものさしが描かれていた。そのものさしから、自分の性の位置を見つけ、丸をつけるのだ。

私も実際にそのものさしの上に自分の性がどのあたりかを考えて丸をつけていくことにした。そこで、私のもやもやは解決した。私は体の性も心の性も女。好きになる性は男。ここまではすなりと丸をつけることができた。でも、表現したい性は男とも女ともつかないと思った。結局、なやみになやんで、男と女の真ん中くらいに丸をつけた。スカートを履かないのも、僕という一人称を使うことも、全部ありのままの自分だと思ったからだ。自分は男でもなく、女でもなく自分らしく生きていきたい。私はあの日、そう決意した。

最近では、心の性や好きになる性の違いで苦しんでいる人がテレビなどでよく放送されている。しかし、その人たちとは違う、表現する性が自分の性と一致しない人だっている。私は性の観点にとらわれず、自分のありのまま生きている人がいることをみんなに知っておいてほしい。そんな人が、性に決めつけられて、悩んだり、ちょっとずつ傷ついていることを分かってほしい。そしてそんな人を見つけたら「君らしくていいね。」と、その人らしさを尊重してほしい。

# 「AIに負けない」

桶川市立加納中学校 2年  
野澤 歩夏



自分の考えを多くの方に聞いていただくことの楽しさを感じました。これから出会うたくさんの方々との関わりを大切に、コミュニケーション能力を高め、夢に向かって歩み続けます。

私の夢は、薬剤師になることだ。しかし、10年後、なくなる仕事ランキングに入ってしまった職業でもある。その理由としては、薬剤師の主な業務である、調剤業務と薬歴管理がAIのビッグデータと相性がいいからだ。そのため、将来的には業務の範囲が少なくなり、需要も減少すると、予想されている。

薬剤師には主に三つの業務がある。一つ目は調剤業務。二つ目は薬歴管理。三つ目が服薬指導である。この服薬指導だけは、患者さんとのコミュニケーションをとりながら行うため、AIに代替される可能性は低いといわれている。ここに薬剤師の仕事の本質とみ力がつまっているのだと思う。

私が薬剤師になろうと思ったきっかけは、小学校3年生の終わり頃だった。コロナウイルスが流行り始め、マスクが手放せない世の中となり、たくさんの方が亡くなった。学校も休校となり、人に出会うことさえ制限がかかった。病気で入院している曾祖母にも面会することができなかった。そのまま曾祖母は他界してしまった。このとき、コロナウイルスに効く薬がまだ世界中になかった。もしも、薬があったら、助けることができた命がたくさんあったと思うし、曾祖母の面会にも自由に行って会話を楽しむことができたと考えようになったことからだ。

私が行く病院では、薬剤師さんがいつもくわしく薬の説明をしてくれる。病院で風邪の症状を伝

えたり、けがの痛みを伝えたりするけれど、薬局では、処方せんを渡すだけで、薬剤師さんは、私の体調を把握して、様子を聞きながら寄り添ってアドバイスをくれる。たくさん種類の薬を取り扱う中で、この薬は何に効き目があるかや、医師から指示された処方せんを元に患者の体調がどんな様子なのかを想像して把握し、優しく親切に対応してくれる。そんな薬剤師の仕事にあこがれをもった。

服薬指導の業務は、AIにはできない。人と人とのコミュニケーションが不可欠である。私の行く薬局の薬剤師さんが印象に残っているのも、具合が悪いときに、優しく親切に声をかけてくれて、待ち時間が長いときでも、だれにでも笑顔で接している姿を見ていたからだと思う。病院に来ている人たちは、みんなどこかしら具合が悪く、薬を求めている人が多い。薬を飲むだけで、症状が治まったり、安定したりする。その薬を手渡すときに患者に寄り添った言葉かけや、コミュニケーションをいかにとるかで、その患者の心を明るく、安心させることができると思う。

今後どんなにAIが発達しても、処方せんを出した医師の考えを的確に把握し、薬を必要とする患者さんにつないでいく薬剤師の仕事は、必要とされ続けていくと思う。これからも、相手とのコミュニケーションを大切に、将来の夢に向かって歩いていくつもりだ。

## (中学生の部 優良賞)

# 「BRIDGE」

## 秩父市立大田中学校 1年 新井 望亜



大会に参加して、様々な人の考え方を聞き、非常に興味を持った。いつか、世界をつなげる人になりたい。学び多き経験となった。練習に付き合ってくれた先生方や家族に感謝の気持ちでいっぱい！

私の将来の夢は、秩父とアメリカの架け橋になることです。私は、アメリカ人の父と、秩父出身の母のもとにアメリカカリフォルニアのシリコンバレーで生まれ育ちました。そこにはアメリカ人、中国人、インド人、日本人など、様々な人種の人々が住んでいます。なので、すでに生まれた場所では外国人と会う機会がたくさんありました。

秩父には多くの外国人が働いています。私の通学時にも通勤中の外国人がいます。その人はいつも自転車に乗っています。運転免許を持っているのでしょうか。仮に持っていなかったとすればなぜ持っていないのでしょうか。運転免許がとりにくい環境だからかもしれません。もしそうならば運転免許をとりやすい環境にしていく必要があると思いました。私の父も、昔は秩父でALTの先生をしていました。なので秩父が大好きです。だから、今秩父で働いている人にも、秩父を好きになってほしいです。

市報でアメリカのアンチオック市と秩父が姉妹都市だと知りました。私の生まれた所と近いので、いつかそこに行ってみたいです。そこで、留学をして、秩父の文化を送ったり、アンチオックの文化を受け取りたいです。

今、頑張れることは学校の勉強です。先生と友人と楽しく幅広く学びたいと思っています。今

年、英検3級を取得しました。もっと向上心と自信を持ってレベルの高い勉強をしたいです。大学生になったらアメリカで勉強することも考えています。

私はニュースで日本人が減少して、外国人の人口が増加していることを知りました。だから、色々な言語を表示する、差別をなくすなどをして、日本人にも外国人にも住みやすい場所にする必要があると思いました。

秩父で外国人が住みやすい環境を整えること、日本人が外国人と気持ちよく生活できること、人種差別をなくすことが私の夢です。漠然とした夢ですが、一歩ずつ進めていきたいです。そのためには、人々の努力が必要だと思います。

秩父の自然、食文化、歴史をアメリカや世界中に発信して秩父のことを知ってもらいたいです。

外国の人に慣れていない人が秩父にはたくさんいます。外見で判断してしまっています。それも差別の一種だと思います。

もし外国の人が困っていたら助けたいです。そのためには、毎日少しずつ勉強していく必要があります。もちろん日本の文化や歴史もしっかり学びたいです。

常にチャレンジ精神を持って前向きに取り組みたいです。

## 「濁った目に映る澄んだ日々」

三郷市立瑞穂中学校 3年  
菊池 玲名



多くの人の前で自分の思いを主張した今回の経験は、私にとって1つの節目となる大きな機会となりました。何十億人もの人々が共存しているからこそ、様々な人の主張に耳を傾けていきたいです。

朝になって目を開けると、いつも通りモザイクのかかったような濁った景色が広がる。洗面所に行って鏡に映った自分と目を合わせると、濁っているのは周りの景色じゃなくて自分の目なんだなって分かってしまう。気を紛らわすかのように眼鏡をかけるが、心は「生きづらい」の文字でいっぱいだ。

私が先天白内障と知ったのは幼稚園の頃だった。当時は言葉が難しく、自分は周りより少し目が悪いだけであまり気にしてはいなかったが、皆と同じように行動できなかつたり、思いっきり遊べなかつたりなど、小さな事で心が傷つく事は多かった。そして小学生になると、その傷は次第に増えていった。私は小学6年生まで「つみき教室」という習い事に通っていたが、そこでは目を使うことが多く、見えない私にとっては最も「生きづらい」を感じる場であった。つみき教室の先生には母からの手紙で前の方の席にしてもらっていたが、それでも見えにくく理解されずに実際の実力より低く見られ、皆に置いて行かれてしまった。目さえ良ければ、目さえ良ければと、どんどん目が悪い自分を責めた。

学校でも「生きづらい」を感じることは数え切れない程ある。小学1年生の時、マナーの授業があった。「これは良いことかな。悪いことかな。」と、黒板に箸を食べ物に突き刺しているイラストが貼られ、私は、それがただの食べ物を箸でつかんでいるイラストに見えた。「良いことだと思う人。」と問いかけられた時に、クラスでたった一人だけ、たった自分だけが手を挙げてしまった。しかもその日は授業参観で、マナー講師の母が参観していた。恥ずかしい気持ちと申し訳ない気持ちが心を襲った瞬間を、忘れる事ができない。

私が特殊な眼鏡をしている為、周りの小学生から眼鏡について毎日聞かれる事が辛い。読みたい本も文字が小さいと近距離にしなければ見えない為、周りの目が気になり読書の時間が楽しめない。

プールの時間に先生の指示が見えず何度も皆と違う動きをしてしまう。教室でも常に一番前の席で羨ましがられる。背が高いせいで後ろの子に黒板を見えにくくさせてしまい、申し訳なさになりに「ごめんなさい、ごめんなさい。」と謝ってしまう。小さなことが毎日重なり限界が来た私は母に、「なんでこんなに自分は目が悪いの。産んだお母さんのせいじゃないの。」と怒鳴ってしまった。勿論、母のせいではない。誰のせいでもない。そんな事は分かっていたが、なぜかそうってしまった。しかし、母からは「世の中には目が全く見えない人だっているの。少し見えているだけでも幸せと思いなさい。泣くなら自分の部屋で泣いて。」と返された。普段優しい母からの予想していなかった厳しい言葉に困惑したが、自分の部屋に行き時間を忘れる程長い間、大粒の涙を流した。「ああ、生きづらい」涙だった。中学3年生の受験生になった今もなお、席を何度も変えたり、周りの子にノートを見せてもらったりしている。その度に心が痛くなり、「どうして、生きているだけなのに」と言葉では表現できない心苦しさを感じる。そして、心苦しさは人の善意の行動からも感じるのだ。

友達が「見て見て、あれ凄いや。」と遠くを指すが、見えない為何の事を言っているのか分からない。このことは、人の善意である。私は善意からも「生きづらい」を感じなければならない。

自分のように障害を持っているだけで毎日「生きづらい」を感じている人は世の中に沢山いるはずだ。だからこそ私はその「生きづらい」を溜め込むのではなく、受け止めて、受け入れて障害を理由に感じる「生きづらい」を少しずつでも良いから無くしたい。鏡で自分の濁った目と目を合わせる日常でも、いつか「ああ、生きやすい」の言葉が社会から溢れる。そんな澄んだ日々を作っていきたい。

## 「目に見えない障害」

飯能市立加治中学校 1年  
高山 千咲



このような大きな大会は初めてなので、とても緊張しました。目に見えない障害というものがあることを多くの人に知ってもらえるとうれしいです。貴重な経験をありがとうございました。

みなさんは「内部障害」という言葉を知っていますか。内部障害とは体の中の臓器に何らかの障害がある事を指します。外見からは分からないけれど、つかれやすかったり、トイレに不自由したり、タバコのけむりで苦しくなったりするなど、周りの人の理解や気づかいを必要とする障害です。この障害の難しいところは、目に見えないというところです。

私は生まれつきの心臓病です。小さいころに7回の手術をしていますが、今の医学では治せない病気のため、今も正常な心臓の半分の機能しかありません。そのためみんながあたり前に出来る事でも私には出来ない事がたくさんあります。運動制限があるので走れません。泳げません。長い時間は歩けません。早歩きも短い時間しかできません。階段をのぼると心臓がバクバクします。友達と楽しく笑っているだけで息切れがします。音楽の授業の歌やリコーダーも本当は苦しいです。だけど、たぶん外から見ただけでは分からないと思います。

心臓病は体の中にある心臓の病気なので外からは分かりません。手術をしたあとはあるけれど、洋服の中なので外からは見えません。治ってはいないけれど、ふつうに生活が出来るように手術をしてもらったので、見ただけで私が心臓病だと分かる人はいないと思います。だけど心臓は半分です。これが内部障害です。

私は自分の病気の事しか知らないで、他にどんな内部障害があるのか調べてみました。まずは私と同じ心臓の機能の障害です。私はないですが、心臓の動きのリズムが不規則な人は「ペースメーカー」という機械を体にうめこんでいます。ペースメーカーはスマートフォンなどの電波で誤作動を起こす事があるので、人の多い所では気をつけ

ないといけません。心臓機能障害以外にじん臓機能障害、呼吸器機能障害、ぼうこう又は直腸機能障害、小腸機能障害、肝臓機能障害、めんえき機能障害の七つを内部障害というそうです。どれも体の内部の機能の障害なので、外から見ただけでは障害がある事が分かりにくいのが特ちょうです。

そんな外からは見えない内部障害ですが、内部障害がある事を示すマークがあります。それは「ハート・プラスマーク」です。みなさんも電車やバスのゆう先席や、ゆう先ちゆう車場などでもしかしたら見た事があるかもしれません。このマークは内部障害を意味する「ハート」マークに思いやりの心を「プラス」する願いがこめられているそうです。私もようち園のころから、今でも通学カバンにハート・プラスマークの小さなキーホルダーをお守りとして付けています。

ハート・プラスマークは内部障害がある事を示す物ですが、何か手助けや気づかいを必要とするすべての人が使える「ヘルプマーク」という物もあります。これは内部障害だけでなく、手足が不自由な人や難病がある人、お腹に赤ちゃんがいる人や、心の病気の人など、外見からは分からないけれど、手助けや気づかいや理解を必要としている人が使えます。私もいつもは付けていないけれど、電車に乗る時などは付けています。それは見た目は健康に見えるけれど、電車やバスで長い時間立っている事ができないからです。

みなさんも電車やバスのゆう先席にふつうに元氣そうな人がすわっているのを見て「何でだろう」と思った事があるかもしれません。もしかしたらその人は外から見えない病気や障害を持っているのかもしれない、そう考えてもらえるとうれしいです。



# 「国際問題に対して 高校生の私ができること」

筑波大学附属坂戸高等学校 3年  
中嶋 美紀



他の方の主張を聞き、国際問題だけでなく様々なことについての問題意識を持ちました。ここで問題意識を持つだけで終わらずに、私にできることを見つけ、積極的に行動していきたいと思います。

現在、ロシアによるウクライナ侵攻が起きている。私はこの国際問題に対し、何かできることはないのだろうかと感じていた。しかしそれと同時に、私にできることなど募金くらいしかないという非力感も感じていた。これに対し、募金ができるなら非力ではないという考えもあるだろう。たしかに募金も素晴らしい社会貢献の1つである。しかしお金を箱に入れるだけでなく、何か困っている人を助けたり、人を笑顔にしたりとより人と関わる形で、より直接的に私にできることをしたいと感じていたのである。

そんな中、学校の授業で探究活動に取り組む機会があった。私は同じような考えを持つ仲間とこの国際問題について活動をしていくことにした。情報収集を通して、日本にはたくさんのウクライナ避難民がいること、またその避難民は様々な面で生活がしにくいと感じているという現状があることが分かった。

しかし、高校生の私たちが何か直接的な支援をするということは、様々な面で難しいと考えられた。そのためウクライナ避難民の支援に、いずれつながるであろうことを考えることとし、私たちにできることは、高校生にウクライナという国の素晴らしさを広めることだという考えにたどり着いた。なぜなら、次世代を担う高校生に戦争以外の面でもウクライナへの関心を持ってもらうことで、様々な観点から将来的な国際交流や募金活動を促進させ、日本に住むウクライナ避難民の方への支援を充実させることができると思ったからである。そして高校生の中で食がトレンドにあると感じていたため、私のチームは食文化の観点から活動することに決めた。

そこで私たちの通う高校でウクライナ料理販売を実施するという活動を行った。この活動をするにあたって、ウクライナの伝統料理をウクライナ避難民の学生の方々に伝授していただいた。お互いの母国語が通じない状況の中、曖昧な英語を用いてコミュニケーションをとることはとても困難であった。しかしジェスチャーを用いて会話をし、分かるまで何度も懸命にレシピを教えていただいたり、反対に学校のことを教えたりすることで、楽しくコミュニケーションをとることができた。そのようにして作ったウクライナの伝統料理は、ネットで見たレシピで作ったものより何倍も美味しかった。またそのウクライナの学生方には、本校の生徒との交流も行っていた。始めは売り場で生徒に対し、案内をしてもらっていただけだったが、徐々に生徒と打ち解け笑顔で会話をしたり、いつのまにかスポーツを一緒にやって楽しんでいたりしたのが印象的であった。

これらの探究活動を通して、まず言語の壁は決して高くないということを学んだ。ウクライナ避難民の留学生が来るにあたって、ウクライナ語についての知識をつけようと動画サイトで勉強をしたが、文

法はもちろん発音もとても難しかったため、コミュニケーションをしっかりとるのは断念しようと思っていたところがあった。しかし今回私やその他の生徒がウクライナ避難民の学生と楽しく交流をすることができたように、コミュニケーションは表情やジェスチャーで十分とることができるということを、身をもって実感した。このことから、外国人とはコミュニケーションを取ることが難しいといったようなイメージを持つのではなく、同じ地球人としてコミュニケーションをとることができるといったようなフラットな考えでいてもいいのではないかと考えた。

次に、問題に向き合うことで恥ずかしくも自分の中で無意識のうちの偏見があったことに気付いた。例えば、「ウクライナ避難民の方は国の支援がなければ生きていくことができない」や「毎日悲しい思いで生きている」などと勝手に思い込みを持ってしまっていたことが挙げられる。これにはニュースで見たウクライナが攻め込まれたという情報だけで、可哀想な存在などと判断してしまっていたところがあった。実際は、支援以外にもウクライナ料理店で働くことで生計を立てている人がいて、そこで楽しく働くこともできているという状況があった。現状も知らずに決めつけることは、相手の尊厳を傷つける行為に値するため、今ではとても反省している。今後はこのように先入観にとらわれてしまわないように、情報を適切に得て、多面的に物事を捉えるようにしていきたいと思う。

最後に全体を通して言えることは、私にできることはたくさんあったということである。始めは、私はすごく無力で何も影響力を持たないと思っていた。しかしそれは違っていた。なぜなら、私は今回の活動でウクライナの文化を少しでも多くの人に広めることができたからだ。これは、情報収集から視野を広く持ち、身近なところで私たちにできることを模索した結果であると言える。このやり方であれば、今後どの場面においても私自身ができることを見つけることができるだろう。そのため、様々な社会課題や国際問題などを抱える現代社会で生きていくにあたって、常に当事者意識を持って私にできることを積極的に取り組んでいきたいと感じた。

ウクライナでは、8月現在でも戦争が続いている。私たちは直接的に関わり戦争を止めることなどはできないかもしれない。しかし今回の経験から分かるように、私たちにできることは、募金をはじめ「絶対にある」のである。そのため、できることをやっていくという責任が一人一人にあるのではないかと私は考える。またその際は、多面的に物事を捉えることや言語の壁は決して高くないということをお忘れなくするべきである。そうして国を越えて協力し合うことで、誰もが笑顔で過ごせるような、より良い社会を創っていくことができると私は信じている。

## 「生きていく」

さいたま市立浦和南高等学校 2年  
伊藤 真弓



生きるということはどういうことなのか、改めて見つめ直す機会をいただき、本当にありがとうございました。日々の感謝を忘れずに、いただいた命を輝かせていきたいです。

明るくて、華やかで、太陽のような笑顔。特技の日本舞踊を活かして、老人ホームに慰問に行くなどボランティア活動を積極的に行い、人の役に立てることに喜びを感じていました。周りにはいつもたくさんの方が集まっていて、笑い声に包まれていました。

これは全て私の大好きな祖母の話です。祖母の姿は幼い頃からずっと私の目に輝いて映っていました。その祖母も今年で83歳になります。脳梗塞や心臓病の持病があり、何度も緊急手術を繰り返してきました。家族皆で夜中に病院へ駆けつけたこともありました。無事に退院できる喜びと反するように、入院する度に生活機能が低下していききました。

現在はベッド上の生活を強いられています。誰かに手を貸してもらわないと、排泄することも移動することもできません。それでも、私が祖母の家を訪ねると、祖母は満面の笑みで迎え入れてくれます。ユーモア溢れる祖母との会話は、とても楽しいです。ただ、以前話していた内容も、ほんの数分前に話していたことさえも忘れてしまうことがあります。今話しているこの時間も忘れてしまうのではないかと、そう思うと私は寂しくなりました。時期を同じくして、失禁する回数も増え、母の介護の手伝いをしていた私は「さっきシーツを交換したばかりなのに」と苛立つこともありました。

このような祖母を見ていると、病気で苦しみたくない。話していた内容や相手を忘れたくない。病気になることや老いることが不安で怖く感じました。

そんな時、私の心の転換点となる出来事がありました。夏休みに新潟県の八海山へ行った日のことです。私はロープウェイに乗ることを楽しみに

していたのですが、当日は雨天でとても残念な気持ちになりました。ところが、上がってみると私の目の前には素晴らしい景色が広がっていました。「雲海」を見ることができたのです。

雲海は、気温や湿度、時間帯などいくつかの条件がそろって初めて発生する自然現象です。私は雨で濡れることや、傘の開け閉めが面倒なため、雨に対して良いイメージを持っていませんでした。しかし、その雨のお陰で私は雲海に出会うことができました。

自分にとって不都合なことも、有難いご縁として受け止めることの大切さ、受け入れることの大切さを知りました。

この体験をふまえて考えたとき、祖母は自分の身をもって、私に生きることはどういうことかを教えてくれていたのだと気づきました。嬉しいこと、楽しいことばかりではなく、苦しいこと、辛いこと全てが生きることなのです。生老病死の苦しみは、この世の誰一人として避けることはできません。生と死が表裏一体であるように、健康だから病気にもなり、病気になればこそ健康の有り難さがわかります。あるがままを受け入れ、日々なすべきことを精一杯取り組む祖母は、どんな状況をも生きる力に変えていく「生のエネルギー」に満ち溢れています。

病気や老いること、そして死をただただ恐れるのではなく、今ここにいる私たちがどのように生きていくかが大切だと思います。

たくさんの人に支えられ、あらゆるものに助けられ今ここに生かされている自分がいます。たくさん笑い、喜び、たくさん悩み苦しみながら、今この一瞬一瞬を大切に生きていきたいと思いません。

## 「幸せをつくる」

早稲田大学本庄高等学院 1年  
伊東 玲偉



緊張しやすく、人前に立つことが苦手な私にとって、今大会に出場し、優良賞をいただくことは非常に貴重な経験でした。この経験を、これからの学院生活や社会生活などに役立てていきたいです。

「ゲームは悪である。」そう考える人は多くいると思います。その理由の多くは、楽しさに中毒性があり、依存してしまう危険性があったり、外に出て遊ぶことが少なくなり、運動能力が低下したりという懸念があるからだと思います。

しかし、私は、ゲームは悪だとは言いきれないと思います。なぜなら、ゲームは単純に楽しむだけのものではないと思うからです。例えば、戦闘するFPSゲームでは、相手の行動に合わせて判断し、どの位置に相手がいるかを記憶することが必要となり、複数のことを同時に考え、処理しながら操作することになります。スウェーデンのカロリンスカ研究所とオランダのアムステルダム自由大学の研究チームが、米国の9、10歳の5,000人以上を対象とした2年間の追跡調査で、テレビゲームをプレイする時間が長い子どもは、IQが2.5ポイント高くなる傾向があったと発表しています。つまり、脳の活性化を促しているということが、科学的に証明されたということです。また、仲間と一緒に協力して考えるという観点では、コミュニケーションがとれるツールと言い換えることもできます。私は、コミュニケーションをとるのがとても苦手でした。初対面の人とはあまり目を見て話すことができず、顔を合わせることもできませんでした。学校などでは、自分から話しかけて会話をすることもなく、休み時間には一人で読書をしていることが多かったです。しかし、ゲームの中での会話になると、戦略の話や、ストーリーの考察、攻略の方法などの話題によって、会話が盛り上がり、たくさんの人と仲良くなることがで

きました。人見知りな私にとって、とても嬉しいことで、幸せな気持ちになりました。また、ゲームをきっかけに多くの友達ができただけで、学校での会話の時間も増え、生活はより豊かになりました。ゲームはやはりただの娯楽だとは言えない魅力があると感じました。また、父親と一緒にビデオゲームをプレイしたとき、二人で笑いあえて楽しかったという思い出が、私にはあります。親子でコミュニケーションをとるきっかけになるということが、自分の体験から言えます。

そんなゲームに惹かれる中で私は、自分もゲームをつくってみたい、つくったゲームで人を幸せにしてみたいと思うようになりました。私はゲームプログラマーになりたいという夢を持ちました。ゲームプログラマーの仕事に就いたら、これからの小さい子どもたちが、私と同じように新しい友達をつくるきっかけとなるような、幸せな体験ができるようなゲームをつくりたいです。また、どんな年代の人でも、わくわくして、大人も童心に帰って夢中になるような、そんなゲームをつくっていききたいとも思いました。

将来ゲームプログラマーの仕事に就いて、自分のゲームで、たくさんの幸せをつくり、与えていけるような人になるという夢に向かって、これからは一生懸命プログラミング言語の勉強をしていきます。また、技術だけではなく、論理的思考力を身に付けられるように努力していきたいです。そして、何より、ゲームを楽しむ心を持ち続けていきたいと思っています。

## 「もう一つの大切な居場所」

埼玉県立草加南高等学校 3年  
落合 優奈



今回は様々な考えを持っている方達の様々な意見を聞くことができ、勉強になりました。この貴重な体験を生かして自分の意見を「主張する」ことを心掛けて生きたいです。

皆さんに大切な人はいますか。心のよりどころはありますか。友達、家族、恋人など大切な人の顔が思い浮かぶでしょう。私は大切な人・心のよりどころになる人の中に「ネッ友」がいます。

ネッ友とは「インターネット上での友達」です。もう少し詳しく説明すると、「顔も本名も知らない、あくまでインターネット上だけの友達であり、現実世界では接点のない人」という意味です。皆さんはこの「ネッ友」をどう思いますか。「顔や名前も知らないのに友達って変」「ネッ友なんて危ない」「実際に会ったことがないから怖い」と思う人もいます。実際母にネッ友の話をしたところ「顔も知らない人と信頼関係を結ぶのは不安かな」と言っていました。そんな良い印象を持たれないネッ友ですが、私にとっては大切な存在なのです。

私には出会ってから今年で4年の付き合いになるネッ友がいます。ここではその人をネッ友さんと呼ぶことにします。そのネッ友さんとはなりきりのオープンチャットで出会いました。そして話しているうちに意気投合し、LINEを交換するまでの仲になりました。こうしてLINEで何気ない会話をしていく中で、ネッ友さんが「人を信じられない」という悩みをもらしたことがありました。会話を続けていくと、ネッ友さんはその頃不登校になっていることや心が不安定になっているということが分かりました。こうした悩みごとはネッ友さんから聞くだけでなく、私もよく聞いてもらっていました。「ネッ友」は、実際に周りの人には相談しづらいことも打ち明けやすかったり、話を親身になって聞いてくれたりします。それは、現実世界では接点がない人だからこそできることなのでしょう。

私の中でネッ友さんがどのような存在か改めて気付かされた出来事がありました。それは中学3年生のときです。ネッ友さんから急に「起きてたら返信して欲しい」というメッセージが届きました。私はそのメッセージに気付いたのは翌朝のことでした。気付いてすぐに返信しましたが、それからネッ友さんからの返信はなくなりました。その後何度かメッセージを送りましたが、何も返ってきませんでした。私はとても心配になりました。ネッ友さんは返信ができない状態に陥っているのではないかと、心を病んでしまっているのではないかと、最悪な事態になっているのではないかと。助けを求めていたのに、それに気付かなかったことを後悔しました。返信が返ってきたのは私の高校の入学式の日でした。帰りのバスの中でスマートフォンのロック画面に表示されたネッ友さんの名前を見て驚き、心の底

から安心したことを今でも覚えています。この出来事を通して改めてネッ友さんが自分の中で大切な存在だということを実感しました。そういった想いは私だけが感じたことではありませんでした。実際にネッ友さんも「ネッ友は小さな相談事も話せる、大切な存在」と話していたことがあります。また、ネッ友に話を聞いてもらって「学校にも行ってみよう」と背中を押されたこともあったようです。今、高校生のネッ友さんは以前より明るく、学校生活も楽しんでます。私自身もネッ友さんのように、苦しい時期や一人で悩みを抱え込んでしまいそうなときにネッ友の存在に支えられているのです。

こうした良い関係を築くこともできるネッ友ですが、注意すべき点や危険なこともあります。例えば、会話やプロフィール欄からネッ友に本名と住所を知られてしまったり、依存をしすぎてしまったりするという問題が挙げられます。実際、事件も起こっています。女子高校生が「死にたい」とネットで知り合った人に相談したところ、「手助けしてあげるよ」と言われ、事件に巻き込まれてしまったというニュースを聞いたことがあります。

このように、良い点も注意すべき点も持つネッ友ですが、関わり方や接し方を考えて行動すればリスクを避けることができます。そしてそれは現実世界の人間関係にも言えることなのではないでしょうか。相手がどのような人か、どのように接するのが適切かを考えて関係を築いていくのは、現実世界での人間関係もネット上での人間関係も同じように必要なことです。

私たち高校生は様々な悩みを抱える時期だと思います。例えば、人間関係や学校生活、進路など、様々なことに不安を抱えているのではないのでしょうか。特に人間関係の悩みは、同じクラスの友達や先生などに話しにくいこともあるでしょう。また、進路で悩んだときには、自分の目指す先に進んだ先輩の意見も聞きたくなるかもしれません。私はそんなとき、ネッ友に相談するという選択肢もっています。現実世界の人間関係とは切り離されている「ネッ友」に、年齢も性別も自分とは違う「ネッ友」に、私は相談することができます。そしてなにより私にとってネッ友は、素の自分を出せることができた、自信を持たせてくれたかけがえのない存在です。

私には、家族や友人、部活仲間など大切な人と過ごす場所があります。そしてもう一つ、ネッ友と何気ない会話をしていく時間も私の大切な居場所なのです。

# 「地球の未来を考える」

埼玉県立秩父高等学校 1年  
関根 怜愛



自分の主張を伝える場を設けて頂き、ありがとうございました。また、他の方の色々な視点からの主張も聞くことができ、とても勉強になりました。今回の経験を活かしながら過ごしたいです。

ふと、「地球の未来ってどうなってしまうのだろうか?」と考えることがあります。でも答えなんて分かるはずがありません。しかし、なんとなく良い地球の未来を想像することができません。

今回私はSDGs14項目の「海の豊かさを守ろう」について考えてみました。ある日のテレビ番組で、普段私たちが何気なく使っている日焼け止めの成分が海を汚染し、サンゴ礁が死んでしまっているということを知りました。それは世界の海で起こっていて、2100年までにサンゴは絶滅の恐れがあるとのことでした。その成分は微量でも有害で、他にもイルカ、魚、エビ、貝、藻類など、あらゆる海の生き物に悪影響を及ぼしていると知りました。人間に有害と言われる紫外線から自分を守るために使っている日焼け止めが、知らないうちに海のたくさんの生き物に害を及ぼしていたという事実衝撃を受けました。私は何度か家族で海水浴に行ったことがあります。また、水族館が大好きで、特に触れ合いコーナーにもよく行き、何度も海の生き物と触れ合ったことがあります。いずれも指先まで全身にたっぷり日焼け止めクリームを塗っていたことを覚えています。海の生き物に有害だと言われている「メトキシケイヒ酸エチルヘキシル」という成分、まさに日頃から私が気に入って使っている日焼け止めクリームの成分表にもしっかり記載されていました。自分がどんな成分のものを使っているかなんて全く気にしていませんでした。でも無意識のうちに自分も汚染に加わってしまっていたと思うととても心が痛みます。ハワイや海外などでは有害成分を含んだ日焼け止めを塗り海へ入ることを禁止している場所が多数あるそうです。その点日本はとても遅れていて、あまり知られていないのが現状です。私が見たテレビ番組で話をされていた方も初めは全く知らず、海でたっぷり日焼け止めを塗っていたところ、地元の人に「あーあ、サンゴ死んじゃうよ。」と言われたことがきっかけとなり、自分ができることは何かを考え始めたそうです。そして自分がオーガニック製品を製造、販売していた経験や知識を生かし、2年の歳月を経てラベンダーやミントの油などから「サンゴに優しい日焼け止め」という商品を作りました。その商品名にした理由も素晴らしく、それを見た人が、「サンゴに優しい?じゃあ私が使っている日焼け止めはサンゴに優しくないの?」と疑問に思うきっ

かけになればとのことでした。凄い発想力や行動力のある方だと思いました。「日本ではほとんど語られていないことを私が広めていかないといけない!」と強い信念を持っている姿が、とても格好良いと思いました。

そしてその人は更なるプロジェクトを考えました。それは、観光客に、海を楽しむついでにビーチクリーンをしてもらおうという企画です。「プロジェクトマナティ」といい、500円で可愛いマナティが描かれた黄色いバッグを購入してもらいます。そして無人島ツアーなどをみんなで楽しみながら、海も同時に綺麗にしてもらおうというプロジェクトです。500円はゴミを処理する資金や運営費にあてられるそうです。このプロジェクトを面白いと感じてくれる観光客や地元のお店などにどんどん広がりを見せているそうです。

普段の生活の中で、地球のこれからを深く考えることがとても大事だと思いました。SDGs14の目標も、海が無い場所に住んでいるとはいえ無関係でないと感じました。プラスチックゴミの8割は街から雨や風によって川へ行き、その後、海へと流れつくらしいです。だから、海のゴミだけを拾ってはだめだということです。世界では多くのプラスチックが使用されていて、2050年までには魚の量を上回ると言われています。そして日本の一人あたりのプラスチック廃棄量はアメリカに次いで二番目に多いらしいです。

「海の豊かさを守ろう」の問題は日本ととても深い関係があるということです。ゴール14の目標を達成するために、私も目の前の小さなことからやらなければいけないと思いました。私が住む地域にも年に数回、クリーン美化というゴミを拾って街を綺麗にしようという取り組みがあります。そういった取り組みに積極的に参加したいと思いました。自分で思いつかなくても、誰かの良いアイデアに賛同し、実際に取り組みに参加することも大事だと思いました。日焼け止めも海では海の生き物に害があるものを使わないようにしたいと思います。私のせいではないという気持ちを捨て、より良い地球の未来を迎えるため、豊かな恵みをもたらしてくれる海を守るため、地球に優しい取り組みに参加していきたいと思っています。

# 特別賞の紹介

埼玉県教育委員会・青少年育成埼玉県民会議



「Humming Bird 未来基金」特別賞  
桶川市立加納中学校 2年  
野澤 歩夏さん

野澤さんの発表は、薬剤師としての夢に対する情熱と現実的な視点が感じられるものでした。特に、薬剤師としての役割に対する深い理解と「服薬指導」の重要性に触れた部分は非常に印象的でした。AIにはできない人間らしいコミュニケーションや共感が必要だと説き、患者との信頼関係を築くことの大切さを力強く主張した点が素晴らしかったです。野澤さんの「AIに負けない」というテーマは、未来に向けた強い意志と明確な目標が感じられました。



「輝け・明るく・裕(ゆたか)に」特別賞  
埼玉県立秩父高等学校 1年  
関根 怜愛さん

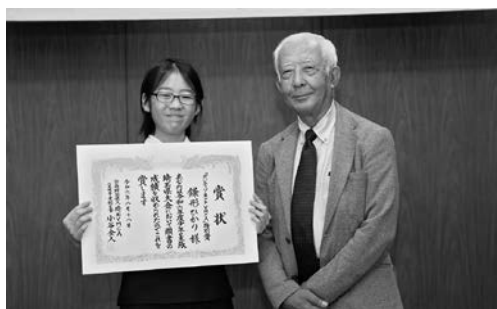
「地球の未来を考える」世界中の人々が取り組むべき大切な課題に向き合うことへの熱い想いを感じました。人が生きていくうえで海洋資源は大切です。1人が使う量は僅かでも世界各地で消費される日焼け止めは大量となり少しずつ海を汚染している現実に着目されていました。生産者と消費者が環境問題に配慮していくことで自分たちの意識を変え、環境問題に向き合う意志表明と「地球のこれからを考える」という言葉に共感しました。

夢や未来の姿に向かい、実現に向けた自信と決意のある作品が希望のキーワード「輝け・明るく・裕(ゆたか)」となるように特別賞を贈りました。



「WATABOKU(わたぼく)」特別賞  
さいたま市立岸町小学校 6年  
越前 心葉さん

「平和学習と私の使命」は広島ご出身の越前心葉さんの平和を願う心根に満ちた主張でした。広島の小学校の平和学習で学んだ悲劇や核兵器の恐ろしさを、曾祖父様の回想録と共に手話を交えた臨場感溢れる素晴らしい発表でした。我々が暮らす埼玉県でもポツダム宣言の受託が決まった昭和20年8月14日の深夜から15日にかけて熊谷市の市街地がアメリカ軍のB29の空襲を受けました。当時の市街地の3分の2が焼き尽くされ焦土と化し、市民の尊い命が奪われました。そんな我が県の過去の悲劇も思い起こさせてくれ、改めて平和の尊さを知らしめてくれた越前さんの発表に感銘いたしました。



「ポジティブネット YMCA」特別賞  
草加市立谷塚中学校 2年  
鎌形 ひかりさん

性の表現に対する様々な固定概念がある中で、個性的に、自分らしく、ありのままの姿で生きたいと願う気持ちが良く伝わり、「互いを認め合い、高めあうポジティブネットのある豊かな社会」と「みつかる・つながる・よくなっていく」というYMCAのビジョンとスローガンに合致したことにより選出いたしました。次代を担う青少年が、自分の思いを地域や社会に発信し行動していくことを、埼玉YMCAは支え続けていきます。



「埼玉キワニスクラブ」特別賞  
筑波大学附属坂戸高等学校 3年  
中嶋 美紀さん

中嶋さん達は、ウクライナの人達に対し出来る支援とは何かを考え、活動していく中で「曖昧な英語でのやり取りでも、お互いに理解しあおうと思うことで、コミュニケーションはとれること」「先入観にとらわれず、多面的に物事をとらえることができるようになっていきたいと思ったこと」は、とても素晴らしいことだと思います。この経験を、今後の社会貢献活動につなげていってください。

埼玉キワニスクラブは未来を担う世界の子どもの幸せのために、社会奉仕活動をおこなっています。世界中の国の架け橋となることを期待しています。



「Next Action 埼玉りそな銀行」特別賞  
幸手市立吉田小学校 5年  
吉良 真子さん

相手の心が見えることは怖いことではなく、困っている人を見つけることや、温かい親切や真心に共感することができるという吉良さんの前向きな考え方がとても印象的でした。

実際の例も並べる事で「ココロほきん」に対しての具体的なイメージが湧き、主張にも説得力を生み出していました。

将来に向けて、今ある社会課題をしっかりと勉強している吉良さんにこそ、埼玉りそな「Next Action」賞は相応しく思います。

今後もししたら世の中が良くなるのかを共に考えていきましょう。



「テレ玉」特別賞  
三郷市立桜小学校 6年  
面来 咲愛さん

面来さんが道徳の授業で学んだペットの殺処分の理由は飼い主の身勝手なものばかり。学校から急ぎ帰り、抱きしめた愛犬からは力強い心臓の音が響きます。この命は人間と同じたった一つの大切な命。「価値ある命」と訴えます。

無責任すぎる人への「あなたの値段はいくらですか。」の言葉がストレートに胸に刺さりました。面来さんなら、今後も正しいと思うことを誠実に訴え続けてくれると期待します。大事なことに改めて気づかせていただきました。感謝の気持ちも込めて、「テレ玉」特別賞を贈ります。



「埼玉新聞社」特別賞  
秩父市立大田中学校 1年  
新井 望亜さん

アメリカ人のお父さんと秩父出身のお母さんのもと、シリコンバレーで生まれ、育った新井さん。外国人に対する眼差しが優しく、現在、生活している秩父を愛する気持ちが伝わってくる内容でした。将来、アメリカと秩父の架け橋となり、大いに活躍されることを期待して、賞を贈らせていただきました。主張されていたように、チャレンジ精神を持って前向きに頑張ってください。

# 講 評

## 埼玉新聞社執行役員編集局長 砂生 敏一氏



15人の皆さん、本日はお疲れ様でした。また、各賞の受賞、誠にありがとうございます。

私自身、審査員を務めたのが3度目となりましたが、毎回テーマを真正面から捉え、真っ直ぐで熱のこもった堂々とした皆さんの主張に感銘を受けております。

今回は私たち審査員を含めて改めて気づかされ、一人一人が真剣に向き合わなければならない内容ばかりでした。何を言いたいのか、何を伝えたいのか、そして何を訴えたいのかというのがこの大会に出場された一人一人に課せられた最大のミッションであります。15人の皆さんそれぞれが普段の日常生活や学校生活の中で「なぜ」「なんで」「おかしい」と感じたことを端緒に一つのテーマについて問題意識を持って聞き、調べ、深く掘り下げ、自分自身に問いかけ、自分自身としての考えをまとめ、強いメッセージ性をもって主張されていたと思います。共通していえることは、皆さんが非常に鋭い観察力をお持ちだということです。そして、どう行動すべきなのかという点が明確でした。今日的な問題、将来的な問題、深刻な社会的な問題など皆さんの社会に対する関心の高さが伺えました。

審査は発表内容と表現力、発表態度の2点の合計得点で各賞を決めさせていただきました。どれも甲乙つけがたい内容でした。

まず小学生の部ですが、当たり前のような何気ない家庭生活や学校生活の中で、ふとしたことをきっかけに社会に対する関心が高まり、「よりよい社会にするにはどうしたらいいのか」と、瑞々しい感性で問いかけている様子が伝わってきました。平和の尊さや命の大切さを訴え、「一人一人が違う個性を持つ他者をどのように理解すべきか」、「生活するのが困難な課題を抱えている人に対してどうすべきか」、「AIによる利便性の向上にどう折り合いをつけていくのか」、それぞれ具体例を挙げながら、こうすべきというぶれない提言が印象に残りました。

中学生の部は、大人の階段を登りつつある中で、自分自身という存在、「アイデンティティとは何か」と、自問自答する中学生世代らしい内容や主張が共通していたと思います。「男性」「女性」という社会的に作られた固定的な価値観にとらわれず、一人の人間としての個性を大切に、さらには、個性の違う他者、とりわけ外国人や自身も障害を抱えながら、障害のある人たちと誰もが生活しやすい共生社会をどのように築いていったらよいかしっかりと考えが述べられました。将来に向けての目標も明確で頼もしく感じました。

高校生・一般の部は、「生きることは何であるのか」、「どう生きるべきなのか」、悩み苦しみながら、高校生らしく哲学的に考察した上での主張が多かったと思います。現在のグローバル化、スピードが早い情報社会を踏まえながら、ゲームやソーシャルメディアが果たす多面的な役割は非常に勉強になりました。紛争が続く国際問題に対して、傍観者ではなく、積極的に関わるという姿勢が伝わってきましたし、地球規模で環境を考えることの訴えも非常に説得力がありました。

日本は今、少子高齢化、人口減少の真っ只中にあります。今日皆さんが主張されたように、社会的な課題もたくさん抱えております。それぞれが主張されたことを家庭や学校で、あるいは地域で実践され、これからの社会に関する関心を高め、それぞれの目標とする将来に向けて、しっかり歩いていってください。

最後になりますが、大会の開催に向けて御尽力いただきました主催者の方々にまずは感謝申し上げます。また、日頃から児童生徒さんの支え、見守っていただいている保護者、学校関係者の皆様、青少年の健全育成に御尽力いただいている方々、企業関係者の皆様に敬意を表しますとともに、次世代を担う若者たちの明るい未来を祈念して講評とさせていただきます。



# 令和6年度少年の主張埼玉県大会の概要

## 1 主催

埼玉県・埼玉県教育委員会・青少年育成埼玉県民会議・  
独立行政法人国立青少年教育振興機構

## 2 協賛

Humming Bird未来基金・埼玉キワニスクラブ・公益財団法人埼玉YMCA・  
羽石電気工業株式會社・森乳業株式会社・株式会社埼玉りそな銀行・  
株式会社テレビ埼玉・株式会社埼玉新聞社

## 3 後援（順不同）

埼玉県市長会・埼玉県町村会・埼玉県市町村教育委員会連合会・  
埼玉県公立小学校校長会・埼玉県中学校長会・  
（一社）埼玉県私立中学高等学校協会・埼玉県高等学校長協会・  
埼玉県特別支援学校長会・埼玉県PTA連合会・  
埼玉県高等学校PTA連合会・埼玉県特別支援学校PTA連合会・  
埼玉県私立小学校中学校高等学校保護者会連合会・読売新聞さいたま支局・  
NHKさいたま放送局・FM NACK5

## 4 応募作文数

小学生の部	17,143点
中学生の部	15,189点
高校生・一般の部	1,882点
計	34,214点

## 5 大会の概要

（日時）令和6年8月18日（日）午後1時00分～4時45分

（場所）さいたま共済会館 大ホール

（進行）

- ・開会
- ・挨拶（青少年育成埼玉県民会議副会長 小松 弥生）
- ・主張発表
- ・ミニコンサート
- ・審査結果発表
- ・講評（株式会社埼玉新聞社執行役員編集局長 砂生 敏一氏）
- ・表彰式
- ・閉会

## 6 審査員（敬称略、順不同）

### (1) 第一次審査員

小学校の部・中学生の部（令和6年6月24日(月) 審査実施）

小島 健司 埼玉県退職校長会  
羽島 隆夫 埼玉県退職校長会  
福島 博子 埼玉県退職校長会  
眞嶋 廣久 埼玉県退職校長会

高校生・一般の部（令和6年6月25日(火) 審査実施）

伊古田 陽子 埼玉県高等学校等退職校長会  
小林 一郎 埼玉県高等学校等退職校長会

### (2) 第二次審査員

長井 正邦 埼玉県中学校長会 副会長  
加藤 哲也 埼玉県高等学校長協会 会長  
船橋 幸代 埼玉県PTA連合会 副会長  
川田 清隆 埼玉県高等学校PTA連合会 事務局長  
砂生 敏一 株式会社埼玉新聞社 執行役員編集局長  
小松 弥生 青少年育成埼玉県民会議 副会長  
柿沼 トミ子 青少年育成埼玉県民会議 副会長  
芦澤 吉一 青少年育成埼玉県民会議 副会長  
青木 孝夫 埼玉県教育局県立学校部長  
檜山 志のぶ 埼玉県県民生活部県民共生局長

## 令和6年度 賛助会員の皆様

青少年育成埼玉県民会議は、次代を担う青少年の健全育成のために以下の企業・団体に賛助会員として御協力をいただいています。（50音順）

赤城乳業(株)	埼玉県ボウリング場協会	日本生命保険相互会社さいたま支社
アゲインメディカルクリニック	(株)埼玉シミズ	(株)日本標準統合物流センター
(株)アドアニモ	(株)埼玉新聞社	(株)ハイデイ日高
アルディージャ後援会	埼玉信用組合	羽石電気工業(株)
(株)アルビノ	埼玉トヨペット(株)	Humming Bird未来基金
(株)イワコー	埼玉ホーチキ(株)	東日本電信電話(株)埼玉事業部
浦和北口オータリークラブ	(株)埼玉りそな銀行	平田精工ジャパン(株)
エファタ(株)	サン・中部(株)	(株)広野
(株)エフエムナックファイブ	(株)シナブルリンク	(株)Prime Partner
エモーションナルリンク(同)	(株)篠塚製作所	本田技研工業(株)埼玉製作所
化研興業(株)	(株)シュアーイノベーション	(株)マイクロミニスター
カネパッケージ(株)	(株)秀飯舎	増幸産業(株)
関東自動車(株)	(学)城西大学	みはし(株)
関東信越税理士会埼玉県支部連合会	Star sea	(株)武蔵野銀行
(株)Q.E.D.パートナーズ	(株)スライヴケア	(株)メディアグロース
(株)キューブコンサルティング	生活衛生同業組合埼玉県映画協会	望月印刷(株)
クリックアンドベイ(同)	生活協同組合コープみらい	森乳業(株)
ゲーテメンズクリニック	たっけーブログ	(株)八木橋
(株)サイサン	たつみ印刷(株)	ヤマノブログ編集局
(学)埼玉医科大学	(有)つじ	(株)ラパヌイ
埼玉キワニスクラブ	(株)テレビ埼玉	リーディングテック(株)
埼玉県小売酒販組合連合会	東洋パーツ(株)	(株)LIFRELL
埼玉縣信用金庫	(株)東和銀行	(株)Regalo
埼玉県信用金庫協会	中沢乳業(株)	(株)WACARU NET

# 令和6年度「家庭の日」ポスターコンクール入賞作品

優秀賞（小学生の部）



「家族一同『いただきます!』」  
春日部市立中野小学校 6年 東穂 あかりさん

優秀賞（中学生の部）



「笑顔の食卓」  
熊谷市立荒川中学校 3年 関根 明美里さん

優良賞（小学生の部）



「私の家族と海の家族」  
飯能市立加治小学校 6年 荒畑 心虹さん

優良賞（中学生の部）



「大切にしよう家庭の日」  
川越市立川越第一中学校 1年 岡村 梨花さん

優良賞（小学生の部）



「家ぞくがふえて、うれしいな」  
春日部市立備後小学校 3年 高橋 一柁さん

優良賞（中学生の部）



「あつい夏！庭のトマトでのりきろう!!」  
久喜市立鷲宮東中学校 2年 橋本 桜羽さん

# 令和6年度

## 「家庭の日」ポスターコンクール 最優秀賞・特別賞作品



最優秀賞（小学生の部）

「みんなで、ラジオたいそう」  
春日部市立粕壁小学校  
4年 鈴木 明那さん



埼玉県マスコット「コバトン」

「埼玉県映画協会」特別賞



「家族でライオンズファン！」  
久喜市立栗橋西中学校  
1年 植村 柑太朗さん

埼玉県美術教育連盟 特別賞



「かぞくでプラネタリウムにいったよ」  
行田市立忍小学校  
1年 茂木 にはさん



最優秀賞（中学生の部）  
「たくさん遊んだ帰り道」  
桶川市立桶川西中学校  
3年 佐藤 杏咲さん



埼玉県マスコット「さいたまっち」

「株式会社イワコー」特別賞



「かぞくでたのしかったラフティング」  
飯能市立美杉台小学校  
1年 吉田 蒼琉さん

「テレ玉」特別賞



「お盆の集い」  
伊奈町立南小学校  
4年 坂田 紗雪さん